

二〇二〇年度

入学試験問題

(二月三日午前)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙九ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上、省略した部分があります。)

科学では「自然」とそれを見ている「人間」を分けてしまいます。これを「自然を対象化する」と言います。それから、自然を分析し始めます。「たんぽぽをきれいだと感じるのは、花卉の黄色の色と、八重やえになつて形と、すつと花茎かけいが立ち上がっている形態が原因です」と言われても、何か興きざめですよ。『きれいなものはきれいだと感じる、それでいいんじゃない』と言いたくなりますよね。

なぜ、あなたはたんぽぽを「きれい」と感じたのでしょうか。たしかに、なかなか説明しにくいものです。そこで、たんぽぽを「きれい」と感じながら「見とれている」あなたを想定してみましよう。すつかりたんぽぽの花に見とれているあなたは、たぶん自分を忘れて、花と同じ世界にどっぷり浸ひかっているのです。そうするとたんぽぽの方もあなたを見ているような気になります。そういうときは、自分も生きものだという感じになり、生がつながっている生きもの同士という感覚になつていのではないのでしょうか。

たぶん「そんな気持ちで見とれているわけじゃないけど」と反論はんろんしたい気持ちもわかります。無意識まで遡さかのぼって思い切つて言葉にしているのです。自分を「自然の一員だ」と感じている日本人が圧倒とうとう的に多いのは、自然とつながっているような気になるときに、生きものとして生きていくことの嬉うれしさが押し寄おせてくるからではないのでしょうか。

これは向こうからやって来るような感覚です。①「受け身」の感覚ですから、自分から何かやるのではなく、次第しだいに包まれていくような感じです。

自然の中の「きれいなもの」に目が奪うばわれることも少なくありません。自然は「きれいなもの」に満ちあふれています。生きものそのものをきれい、美しいと感じるのはどうしてでしょうか。

みなさんは無意識に「きれい」と「美しい」を使い分けてはいませんか。本音で、直観で語る時は「1」と言い、少し改まった席で、よそよそしい時には「2」と言うのではないのでしょうか。「きれい」は元からの日本語ですが、「美」とは元々は「立派だ」「見事だ」「かわいい」という意味で多く使われました。それが明治時代にビューティフル (beautiful) の翻訳語ほんやくごとして「3」が当てられてから、④の意味と重なってくるのです。

「きれい」は「きれいに耕そうじしてある」「掃除したからきれいになった」とも使います。整ととのっている、乱れていない、という意味があります。逆に「きれいでない」とは荒さられている、汚きたない、ということ。つまり自然を見て「きれい」「美しい」と感じるのは、荒れておらず、自然な感じであるという意味なのです。

自然を「きれいだ」、つまり「自然だ」と意識するのは、何よりも風景を眺めたときではないでしょうか。みなさんはどういう時に風景を眺めますか。生きものを見つめているときには風景は見えません。私たち百姓も、仕事をしているときには風景は見ません。私が風景を眺めるのは、仕事の手を休めるときです。畦に腰を下ろして、一服するときです。なぜ風景を眺めるのでしょうか。たぶん「気持ちがいいから」と答える人が多いでしょう。私もそうです。

でも、なぜ気持ちがよくなるのでしょうか。「自然があふれているから」と答えたくなります。風景は天地自然がその姿を現すときです。「風景が目飛び込んでくる」という感覚はありませんか。見ようとすると前に、向こうから飛び込んでくるのです。② トンネルを出て、急に視界が開けてきたような感じに似ている時がありませんか。自分が見るといふ行為をしなくても、見えてしまうのです。この感覚が風景の醍醐味です。

なぜなら③ 主役は風景の方に（天地自然の方に）あるからです。私たち自身がいつも天地自然の一部だからです。そのことをつい忘れていて、ふと「気づく」と天地自然に囲まれているのです。その「気づいた」時の天地自然の姿が風景なのです。これが私たちのありふれた日常の風景というものです。

④ あ、すぐに忘れてしまいます。昨日見た風景で思い出すことができるものは、ほとんどないでしょう。それでいいのです。ところが旅行すると、事態は一変します。普段は見ることがない、他所の目新しい風景が目飛び込んでくるからです。新鮮で、発見があります。昔から「風景は④ 旅行者が発見する」と言われてきました。しかし、毎日毎日、旅行者のように目新しい風景を目にするなら、それは通常ではありえないことであって、すぐに疲れ果ててしまうでしょう。じつは風景はありふれた在所の風景が一番いいのです。自分が生きている世界を内側から見て、味わっているからです。このようにありふれた風景は特別でなく、自然な感じがするから、意識せずいいものなのです。

「殺風景」とは、面白い言葉ですね。これは中国の漢語を輸入したものだそうです。風景を殺すとはただならぬことでしょう。

福岡県でも八女市星野村に実に石垣が美しい棚田があります。ところがこの棚田の上に送電線の鉄塔が建っていました。これが「殺風景」だと批判され、移設されました。棚田の石垣も鉄塔も人間がこしらえたものですが、なぜ鉄塔は風景を殺すのでしょうか。二つの答え方ができるでしょう。まず、この鉄塔だって、建てられるときには目新しい近代的な風景として登場したのです。山奥のダムから都会に電気を送る文明の使者の姿で現れたのです。しかし、現代では「なにもこんなところで見たくない」と多くの人が（とくに旅行者は）思うようになりました。「こんなところ」とは自然がいっぱいのところ、ということでしょう。石積みの棚田は、自然に見える

のです。

人間が天地自然の一員であり、人間の営みも天地自然の一部になっていた時代の棚田なのに、人間が天地自然から抜け出て、工業的にこしらえた鉄塔は合わない、自然な風景を殺しているという感覚は、新しく生まれたものです（これは近代化批判の感覚と呼ばれています）。「伝統的な街並み保存地区」という言葉を聞いたことがありますか。全国各地で、江戸時代、明治時代の名残を残した街並みや建造物が「保存」の対象になり始めたのは、一九九〇年頃からです。

それは近代化というものが、あまりにもそれまでの伝統的なもの（前近代の形）を破壊し過ぎたことが、誰の目にも見えてきたから始まったのです。近代化は⑤もだったのです。

鉄塔のような新しい大きな人工物なら、すぐに気づきますし、違和感を覚えるような時代に私たちは生きています。しかし、棚田が決して人工物に見えないように、普段の私たちは、人工物を意識的に探して区別しているのでしょうか。

旅行者になってみましょう。目の前に山頂に雪をいただいた高い山がそびえています。麓には、緑豊かな森が広がり、更に手前には田植えしたばかりの田んぼの風景があり、ゆるやかな風が渡っています。さて、どこまでが自然で、どこからが百姓が手を入れて改造した森林や農地だと区別するのでしょうか。少なくとも日本人にそういう感性や習慣はありません。「すべて自然な風景だ」と言うしかありません。こんな時に、厳密にどこまでが人間の手が入った自然かなどと考えていたら、風景を堪能することはできません。

⑥い、その風景の一部に高速道路のガードレールが入っていたら、どうでしょうか。目をそらしたくなるでしょうか。このように私たちははつきり自然と区別できるものと、できないものがあることを知っています。⑥田畑は自然と区別しませんが、鉄塔や高速道路は区別します。

⑦う 広々とした長方形の区画に整備された田んぼをどう思いますか。私は狭くて曲がった田んぼに馴染んでいるので、あまりきれいだと思いません（むしろ不自然だと思えます）が、若い人はこちらの方がきれいだ（自然だ）と言う人も少なくありません。

どうやら、自然と非自然（人工）を区別する基準は、その風景が「自然か、不自然か」ということのようなのです。人の手が入っていても、それが不自然でなく自然な感じであれば自然に含ませても違和感がないのです。これは日本人の自然の見方で、とても大切なことです。

しかし、こんな曖昧な基準では、個人差が大きすぎて、自然を守る基準としては困りものです。そこで、科学ではこの不自然ではない基準を「生物多様性」や「持続可能性」や「物質循環」や「エネルギー収支」などで、計ろうとしますが、うまくいきません。なぜなら私たちの実感や感覚とつながらないからです。

そこでもう一つの方法は、私たちの不自然だと感じる感性を鍛えて研ぎ澄ますことです。しかし、これも簡単ではありません。なぜなら不自然なものが日増しに増え続けているからです。

(宇根 豊『日本人にとって自然とはなにか』より)

問一 — 線部①「『受け身』の感覚」を説明したものとしてふさわしくないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 花も生きものだと実感し、自分と生がつながっていると思うこと。
- イ 自分が人間であることを忘れてしまうほど、自分を「自然の一員だ」と感じること。
- ウ 自分も野花と同じ世界にいる気分になり、たんぽぽも自分を見ているように感じること。
- エ たんぽぽの花の色や形が大好きで、くわしく分析してたんぽぽをより深く知ろうとすること。

問二 本文中の 1 } 4 にあてはまる語の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ア | 1 | 美しい | 2 | きれい | 3 | きれい | 4 | 美しい |
| イ | 1 | 美しい | 2 | きれい | 3 | 美しい | 4 | きれい |
| ウ | 1 | きれい | 2 | 美しい | 3 | きれい | 4 | 美しい |
| エ | 1 | きれい | 2 | 美しい | 3 | 美しい | 4 | きれい |

問三 本文中の〔②〕にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア どうやら イ きつと ウ まるで エ なぜか

問四 —線部③「主役は風景の方に（天地自然の方に）ある」とありますが、これと反対のことを述べている部分を、本文中から十三字で抜き出して答えなさい。

問五 本文中の〔あ〕〔う〕にあてはまる言葉を、次のア～ウの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア しかし イ ところで ウ ですから

問六 —線部④「旅行者」とありますが、「旅行者」とはどのような存在ですか。最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ありふれた日常ではない風景を発見する存在。
イ 目新しい風景の良さを皆（しょうかい）に紹介する存在。
ウ 在所の風景のおもしろさを発見する存在。
エ 私たち自身が天地自然の一部であることを証明する存在。

問七 本文中の ⑤ にあてはまる言葉を、本文中から五字で抜き出して答えなさい。

問八 — 線部⑥「田畑は自然と区別しませんが、鉄塔や高速道路は区別します」とありますが、田畑を自然と区別しないのはなぜですか。本文中の言葉を用いて答えなさい。

問九 本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 普段見慣れた日常の風景だけが、人の心を気持ちよくすることができ。
- イ 経験的に蓄積ちくせきした美意識や美感を鍛えて研ぎ澄ますことによつて、自然を守る基準は計られる。
- ウ 星野村の棚田につくられた石垣は、人工的で不自然であると多くの旅行者に批判された。
- エ もともと人間は、科学によつて自然を分析することを好まなかつた。

問十 あなたが好きな自然の風景とはどのようなものですか。その良さが伝わるように、二百字以内で紹介文を書きなさい。

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

シロクロシヤシンヲカラーニスルトイウギジュツガニホンノダイガクノケン
キユウデカイハツサレマシタ。コレハジンコウチノウノギジュツノオウヨウデ
ニヒヤクマンマイイジヨウノシヤシンノジヨウホウヲキロクシチイサナトク
チヨウノキヨウツウテンヲミツケダシテイロヲツケマス。コレマデミルコトガ
デキナカッタセカイヲシルキツカケニナリソウデス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 水源地をたどる。
- (2) 高低のある土地。
- (3) 先方の意向を聞く。
- (4) 悪気なく発言する。
- (5) 科学史上画期的な発見だ。
- (6) 人生セツケイを立てる。
- (7) 二人の意見はタイシヨウ的だ。
- (8) ゲンミツな検査をする。
- (9) イセイの友達とも仲良くする。
- (10) ユウビなふるまいを心がける。

四

次の(1)～(5)のことわざ・慣用句の意味として最もふさわしいものを、後のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 石橋をたたいて渡る
 - (2) 身から出たさび
 - (3) 雉も鳴かずに撃たれまい
 - (4) どんぐりの背比べ
 - (5) 医者の不養生
- ア 余計なことをしたために災難にあうこと。
イ 自分の犯した悪行のために自ら苦しむこと。
ウ 同じようなものばかりで違いのないこと。
エ わかっているのに自分では行動しないこと。
オ 用心に用心を重ねて慎重に物事を行うこと。

